



— 卷 頭 言 —

## いろいろなフュージョン

船橋市立医療センター 小野寺 敦  
(電子情報管理委員会担当理事)

「子曰、吾十有五而志乎學，三十而立，四十而不惑，五十而知天命，六十而耳順，七十而從心所欲，不踰矩」いわゆる「四十にして惑わず」「五十にして天命を知る」は、古文漢文が大の苦手である私も耳に残った『論語』にある各世代の道理について目標となった有名なことばです。「天命」とは「運命」と「使命」との両義を含んでおりその人にとってどちらとも解釈して良い生涯の在り方だそうです。48歳になる今の私は「不惑」でもそうでしたが「天命を知る」などは不安で一杯でおこがましい限りです。これに関してとある興味ある説を紹介します。「人間の総合能力40歳最高説」です。

長い人生、学力を着けることを含めた「体力」に関しては下降してゆくのみですが、一方では様々な経験およびそれに基づく判断力については、年齢が増すほど増えてゆくのも事実で、そうするとどの時期が一番充実しているかは、体力と判断力の総合として、40歳前後が極力ではないかという説です。平均寿命が異なり現代と比較にはなりません、古代ローマの「元老院」議員は30歳代であり、わが国の時代劇でよく登場する「老中」「若年寄」といった現代の閣僚ポストも、実は30歳代でその任に就いたそうです。「老」とつくのは人間の総合能力最高時期を表しているのではないのでしょうか。例えばクリントン大統領は40歳代前半でトップに立ち、マイクロソフト社のビル・ゲイツにおいてもその活躍は皆さんに判りやすい例ではないでしょうか。40歳の課長が一番総合的な「能力」があつて、50歳の部長は30歳の係長と能力的には、ほぼ同じということだそうです。ローテーション時代で真摯な研究活動が困難な時代になっていますが、若い方々による将来の核医学技術引率を期待したいと同時に、先輩方の経験をどしどしこの会に繁榮していただき、これからは「総合能力」の高い学会を目指してゆくべきではないかと思えます。

本学会は勿論、今の医療学会業界は、薬事・診療報酬などの経営面やエビデンスを基本にした積極的なガイドラインの取入れにより「標準化」「資格認定」という会員にとって理解しやすい方向に向かっています。これからは、30年という長い歴史に培い幅広くなったこの会員各世代の特徴を活かした学会運用に着目しても良いのではないのでしょうか。PET/CTを代表に、各モダリティやシミュレーションなどを駆使したフュージョン、オーバーレイ、レジストレーションした画像診療は、国内外を問わず核医学界にすっかり定着してきました。各分野の長所を取り入れつつ短所を補うこの手法は、その将来を危惧していた核医学技術に光が差したと言っても過言ではないと思えます。秋葉原で起こった「無差別事件」は、ネット・携帯世代だけでは片付けられない人との繋がりによる動機で殺伐なものとして記憶に新しいところです。私自身同じ子を持つ親として「天命を知る」というよりも「知らなければならない」世代を前にしていますが、長所短所を補った次世代への「繋がり」「橋渡し」このフュージョン行為が今後の学会活性化にふさわしいと思えます。懸案事項でありました本学会の法人化について、「特定非営利活動法人」を目指した定款(案)が公開され、総会での議決を待つまでに至る状況となりました。

今こそ各世代の会員の皆様は協力・知恵を出し合いこの会の新しい将来を考察する良い機会ではないでしょうか。世の中は「昨日の常識が明日の非常識」になることはよくあり過去の成功体験がかえって邪魔になって変革のタイミングを逃すということが度々起こりうると言います。1,000床と100床、研究施設と臨床施設、カメラのタイプ、アナログ・デジタル系などの垣根を越えた世代同士、臆せず各世代がフュージョンする場となることを希望します。

今年の総会は、三宮敏和大会長、宍戸敏彦実行委員長を基に平成20年11月24日より3日間千葉市幕張メッセで開催されます。ご存知のとおり、今回は日本核医学会との合同開催です。これもまた、学会同士の垣根を越えた総合能力を高めるための「フュージョン」の夜明けだと思います。初めての試みでその実行に運営運用に携わる会員の皆様は、さぞやご苦労されていると思えます。当委員会も演題登録システムで従事しておりますが、登録数から考察しても今年も盛会になることは間違いないようです。「融合」のためにも沢山のご出席を祈念いたします。我が電子情報管理委員会委員の皆さんも本学会のため、頼りない48歳の委員長のために日夜、頑張っています。何卒温かい目でご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。